

謹賀新年

ジャパントラストかわら版
情熱羅針盤



新年明けましておめでとうございます。

皆様のおかげで今年も無事に新しい年を迎えることができました。

本年度は米中貿易戦争がコンテナ市場にどう影響を与えるのかが焦点になります。

現在、世界最大の米国、中国の二国間貿易で、世界のコンテナ輸送量の約14%のシェアを占めています。

【初詣：名古屋本社社員一同】

昨年7月以降、米中相互に追加関税をかけ始めていますが、現状は中国向けを含む米国発アジア向け西航(復航)トレードについては荷動き減少の傾向があり、貿易戦争による影響が少しはあるものの見られているようです。一方、アジア発北米向け東航(往航)トレードでは在庫の積み増しを想定した駆け込み需要ともいえる荷動きの増加とみられる動きがありますが、本年度、荷動きが反動減する可能性も無視できないため、動向を注視していく必要がありそうです。

また同じく1月に発効するSOx(硫黄酸化物)排出規制を控え、第4四半期(10月～12月)から本格的な低硫黄燃料への切り替えが始まります。

本年度更改の長期契約の対象期間にも含まれるため、この大幅なコスト増をどのように転嫁されるかが今後を占う大きな山場になりそうです。

外部環境は絶えず目まぐるしい変化をしておりますが、引き続き弊社の主力サービスである北米航路を軸に、OOG貨物など特殊コンテナの集荷、サービス品質の向上によるお客様の信頼獲得に力を入れていく方針です。

弊社のポリシーである「スピードと情報」で独自性を発揮し、お客様の求める以上のサービスをご提供できるよう、ジャパントラスト社員一丸となって取り組んで参ります。

今一度、皆様方に更なるご支援をお願いいたしまして、新年のご挨拶とさせていただきます。本年もどうぞ宜しくお願い申し上げます。

ジャパントラスト株式会社 取締役統括部長 白井智彦

海運豆知識 ～船舶の性能維持に欠かせないドック入り～

人間に健康管理が必要のように、船にも性能維持のための検査やメンテナンスが必要なことはもちろんだ。就航している間のこうした作業は、エンジン関係なら機関士や機関部員、その他の部分は航海士や甲板部員の仕事で、航海中や停泊中にも絶えず異常のチェックや調整・補修作業が行われている。しかし長い航海期間中には、海上での調整、補修だけでは手に負えない問題が出てくることも多い。また海中に没している船底部や推進器、舵などまでは手が回らない。そこで船舶の場合も、自動車の車検に相当する定期的な検査が船舶安全法によって義務づけられている。例えば外航貨物船の場合、建造中に行われる製造検査に合格すると有効期間が5年の船舶検査証書が交付される。以後5年周期で繰り返される検査を定期検査といい、定期検査のない年には中間検査が行われる。さらに、定期検査を含む5年間の証書有効期間中に2回は必ずドック入りして検査が行われる。この時は、船底に付着した貝類や海藻類の除去と船底塗料の再塗装、主機関を始めとする機器類の調整や修理など、広範なメンテナンス作業も同時に実施される。こうした作業を行うために、造船所には、建造用とは別に修理用のドックが用意されている。つまり造船所は、船を建造するだけでなく、健康診断や治療を行う病院の役割も持っているわけだ。「人間ドック」という言葉が、ここから生まれたのは言うまでもない。



【1月のアメリカの祝日】1月1日:元日 / 21日(1月第3月曜日):キング牧師の日